

《専門教育科目 実習関連科目 教育実習》

科目名	教育実習指導（幼）（1回生）				
担当者氏名	山田 薫、卜田 真一郎、中村 妙子				
授業方法	実習	単位 卒業の必修・選択	0・選択	開講年次・開講期	1年・前期
科目／施行規則に定める 科目区分又は事項等	<input type="radio"/> （幼）－ 教育実践に関する科目 <input type="radio"/> （幼）－ 教育実習				

《授業の概要》

幼稚園教諭2種免許状を取得するために必要な教育実習への意欲を高め、安心感をもって実習に臨むために必要な学習を行う。実習は各教科で学んだ理論や内容を、保育の現場で直接幼児と接することにより、新たな気付きや学びが得られる貴重な場である。1回生は、幼稚園や認定こども園の機能や実態、幼児との関わり方、それらを実習記録として日々実習ノートにどのように書けばよいか等についても学習を深める。初めて教育実習を経験する1回生が、戸惑うことなく目的をもって実習に臨めるよう園生活の実際や幼児の発達を理解できる内容になっている。実習は一人の教師としての責任が伴う場でもあるので、社会人として必要なスキルも身につけることも目指す。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）

《教科書》

『教育実習の手引き』（常磐会短期大学実習指導室発行）  
『幼稚園教育実習』玉置哲淳・島田ミチコ編著（建帛社）

《授業の到達目標》

1. 幼稚園や認定こども園の役割や機能について具体的な実践を通して理解する。
2. 観察に基づき、子どもや保育について理解する。
3. 保育実践に参加することを通じて、教師として必要な指導・援助・環境構成等の実際を学ぶ。
4. 幼稚園教諭・保育教諭の業務と職業倫理について実践を通じて理解する。
5. 自己の課題を明確化する。

《科目番号／担当形態／免許資格の必修区分／備考》

科目番号：A06  
担当形態：クラス分け  
幼稚園教諭：必修  
保育士：－

《成績評価の方法》

平常点（受講態度・発表など）、課題（提出物）、実習施設の評価（教育実習記録等を含む）をもとに可否を判定

《担当教員の実務経験と授業の関連》

幼稚園教諭・園長・認定こども園園長等の勤務経験をもとに、実践的な演習を行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容／学習課題【予習復習・時間】
1	教育実習の意義と目的	教育実習の目的や必要性を理解する。1回生の教育実習指導と教育実習の概要を知り、基本的な心得を学ぶ/並行して開講されている教育課程総論の授業内容を再確認しておく。【40分】
2	実習に必要な手続きと資料作成	実習の前後に必要な諸手続きの必要性を知り準備物を整える（実習生カードの作成・名札の準備・事前事後訪問のマナーと書類の作成）/配布されたワークシートを熟読し手続きに必要な準備をしておく【30分】
3	幼児教育の実際（保育現場の姿から）	幼児教育の実際について現場の教師から学ぶ。実習生としての子どもへの関わり方や心がけ遊びの実際について指導を受ける/幼児教育の実際を想定し、子ども幼稚園教諭保育教諭の姿を把握しておく【20分】
4	観察を通して学ぶ・参加して学ぶ	1回生実習の中心となる観察実習・参加実習の在り方を学ぶ。子どもとかわるに当たっての基本的な考え方について学ぶ/教育実習の手引きを熟読し、実習の基本的なあり方を理解しておく【30分】
5	実習記録の必要性	実習記録を書くことの意味を考え、書き方について学習する。記述内容・文章表現の方法を具体的に学ぶ。/実習記録の書き方の原則及び望ましい文章表現について理解しておく【60分】
6	実習記録の記述の仕方	例を参考にして、どの欄に何をどのように記述するのかを具体的に学ぶ。また、実習で学びたい目標を明確化する。/DVDを視聴し、実習場面を設定して実際に記録しておく【60分】
7	実習直前の準備と心構え	実習における各自の課題を明確にする。成績評価票の内容を把握し自己評価の視点として活かす。事前準備を確認する/教育課程総論の授業で行った学びを参考にして、記録の書き方や準備物を確認する【90分】
8	事後指導反省会及び総括（2回生実習に向けて）	実習経験をグループ討議し、所感及び自己評価票を書く。各自実習を振り返り、2回生実習への課題を明確にする/実習での学び及び自己課題を整理して、今後の学びを具体化する【30分】
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 実習関連科目 教育実習》

科目名	教育実習指導（幼）（2回生）前期				
担当者氏名	山田 薫、卜田 真一郎				
授業方法	実習	単位 卒業の必修・選択	0・選択	開講年次・開講期	2年
科目／施行規則に定める 科目区分又は事項等					

《授業の概要》

教育実習は、各教科で学んだ理論やさまざまな内容を、保育の現場で直接幼児と接することにより実習に生かし、また実習から新たな気づきや学びが得られる貴重な場である。

2回生の実習では、幼児教育の多様なあり方に触れると共に、実際に指導案を作成して責任実習を行う機会等を通して、専門職としての力量と自覚を育むことが目標となる。

《参考図書》

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）

《教科書》

『教育実習の手引き』（常磐会短期大学実習指導室発行）

『幼稚園教育実習』玉置哲淳・島田ミチコ編著（建帛社）

《授業の到達目標》

1. 幼稚園や認定こども園の役割や機能について理解を深める。
2. 保育に参加することを通じて、教師として必要な指導・援助・環境構成等のあり方を学び、実践する。
3. 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価を通して、教師として必要な指導力・実践力を習得する。
4. 幼稚園教諭・保育教諭の業務と職業倫理について理解を深め、実践できるようにする。
5. 自己の課題を明確化し、反省の実践者としての力量を身につける。

《科目番号／担当形態／免許資格の必修区分／備考》

科目番号：A06

担当形態：クラス分け

幼稚園教諭：必修

保育士：－

《成績評価の方法》

平常点（受講態度・発表など）、課題（提出物）、実習施設の評価（幼稚園実習記録等を含む）をもとに合否を判定

《担当教員の実務経験と授業の関連》

幼稚園教諭・園長・認定こども園園長等の勤務経験をもとに、実践的な演習を行います。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容／学習課題【予習復習・時間】
1	2回生実習の意義と目的 1回生の反省を踏まえる	2回生実習で何を学ぶのか、その意義と目的を明確にし、実習開始までに必要な手続きや準備物の確認をする/1回生実習で学んだ内容と反省点を再確認しておく【30分】
2	子どもとの関わりについて	実習中に想定される様々な子どもとの関わりについて、グループ討議を行う/配布されたワークシートに登場する子どもの状況や思いを整理しておく【30分】
3	幼児教育の多様性と独自性（保育現場の姿から）	外部講師より私立幼稚園の特色や目指すもの、これからの幼稚園の役割や方向性などを具体的に学ぶ/幼児教育の教育理念、保育のあり方について学んだことを整理し、2回生としての目標を明確にする【30分】
4	指導計画の作成① （教材研究の方法）	責任実習を想定して教材研究を行う。責任実習で行うべき子ども理解の内容、準備することなどを明確化する/責任実習の題材を決めて、その題材についてどのように子どもたちに示すか具体的に考えておく【60分】
5	指導計画の作成②（部分 保育指導案の作成）	教材研究をもとに、部分保育指導案の作成を行う。環境構成、活動の展開、教師の指導・援助の内容をより具体的に考え、実習で学びたい目標を明確化する/1回生で学んだ保育案作成について再確認しておく【60分】
6	指導計画の作成③ 実習の準備と心構え	責任実習を想定して全日保育指導案の作成を行う。実習成績評価票の内容を把握し、2回生に求められる成果を自己課題に反映させる/責任実習において園生活全般を把握し活動の展開を細かく整理しておく【90分】
7	事後指導・反省と総括	実習を振り返り所感及び自己評価票を記入する。グループ討議を交流し就職を視野に入れたこれからの自己を考える手立てとする/自己課題を明確にして社会に出るにあたっての自らの目標を明らかにしておく【30分】
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		